

2013年 英国感染管理研修に参加して

神戸市立医療センター中央市民病院 看護部 感染症病棟 新改法子

◆はじめに

2013年10月14～16日の3日間、日本感染管理支援協会が開催している英国感染管理研修に参加してきました。土井英史先生の海外感染管理研修には今回で3回目になります。初めて参加したのは10年前の中材学会参加ツアーでしたが、私自身あれから感染管理が大好きになり、今にいたっています。

今回の研修報告と、少し土井先生の海外研修の楽しみ方を一緒にお話させていただきます。

◆土井先生、参加者の方々とのディスカッション

私は今回で3回目になりますが、新たな発見や学びは毎回多くあるためホント1年に1回は土井先生の海外セミナーに参加したくなりますが、それ以外に一つ理由があります。それは参加される方々や土井先生と短期間で親しくなれることです。先生のセミナーを聞いた方はよくご存じだと思いますが、先生はとても賑やかで場を楽しませてくれるので参加者の皆さんともすぐに馴染めて、楽しい時間を過ごすことができます。

参加者の方々はリピーターの方が多く、私と同じ「感染&土井ファン」ではないでしょうか？毎回海外セミナーには多くの医療関係者が日本全国から集まります。今回も20名参加されました。私は一生懸命に頑張っている参加者の皆様の姿にとっても励まされます。参加者は看護師だけでなく、医師や薬剤師の方、そして今回は診療情報士の方や医療関連企業の方も感染管理の知識を深めるために参加されていました。多職種や企業の方と話せることで多くの学びとヒントを得ることができます。違った角度から考える視点ができ、同じ気持ちを持った方々とのディスカッションはとても貴重な経験だと感じます。

◆ツアーの楽しみ

海外と聞くと、『お金がない』、『休みが取れない』、『英語が話せない』、『海外なんて自分には難しすぎる・・・』などの心配事があるかもしれません。

お金の心配は多少残りますが、土井先生のツアーは現地集合ができますので私はHISで一番安いお金でいけるルートを探してもらって参加しています。今回は大韓航空で関西空港からソウル（インチョン）経由でロンドンまで行きました。途中のインチョン空港で免税品の買い物をするのも一つ楽しみが増えます。

土井先生は頻りに海外を訪問されているとのことで、研修日の夜は土井先生がチョイスしてくれたお店で時間を忘れるくらい楽しく過ごせる晩餐会が開かれます。

今回のセミナー日程では観光日としてはありませんでしたが、日本へのフライトは夜発でしたので午後まで観光ができました。土井先生がツアーガイドさんのように観光名所を案内してくれます。ガイドブックを見ながら行く観光もいいですが、たくさんの観光場所を効率よく連れて行っていってくれて、短時間で有意義な時間を過ごせます。休みがとれる方は、もう一泊してのんびり帰るのもよし・・・です。そんな参加者もおられました。

晩餐会や観光も海外セミナーの楽しみの一つです。



観光で訪れたタワーブリッジ

土井先生の海外研修には、WOOさんとEMIKOさんという通訳のかわいい女性の方が2名参加して下さいます。分かりやすく何でも聞いてくれて、医療の知識も本当に豊富で聞いていてとても心地が良いのです。英語の心配はご無用です。

感染対策の仕事は、スタッフ教育やマニュアル作成、サーベイランス、アウトブレイク対応などとにかく業務量が多く、くじけそうになったりへこんだりすることがよくありますが、「来年も海外に行きたいから、一年間頑張る！」という目標を持ちたくなる、私にとって海外研修はそんな存在です。

◆研修の様子

3日間の研修では、主に午前中に講義を受け、午後から病院訪問でした。微生物専門医師や感染管理ナース（日本ではICNやCNSにあたる）から最新の情報を含む感染管理の知識や技術の講義を受けました。講義中、そして講義の後では自由に質問ができます。

病院訪問では、講義を受けた内容が実践されている現場を実際に確認できると同時に、様々な工夫を凝らした手法を自分の眼で見ることができるのでこれからの活動に大変参考になります。何より、私たち訪問者を温かく出迎えてくれる研修先の方々へは感謝の気持ちと同時に、自分もそのようになりたいと思います。



講義の様子



講師に質問している参加者

◆講義について

現在私は、手術部位感染（SSI）の予防に向けた取り組みに力を入れていますので、SSI の講義は大変勉強になりました。その中で大変興味深かったのが SSI バンドルの話でした。

…SSI ケアバンドル…

MRSA スクリーニングと除菌

2%クロルヘキシジンの皮膚消毒

抗菌薬適正使用

カミソリ禁止

血糖管理

体温管理

閉創時間の最適化

SSI ケアバンドルという抗菌薬適正使用、血糖管理、クリPPER除毛、体温管理は比較的よく知られていると思いますが、それに加えて MRSA スクリーニングと除菌、閉創時間の最適化、2%クロルヘキシジンの術野消毒がバンドルに加わっていました。その中で 2%クロルヘキシジンの術野皮膚消毒により SSI が減少した報告があり大変興味深い話でした。

SSI 発生率を明らかにするためには退院後まで追跡することが重要です。私の施設でも SSI サーベイランスを実施していますが、退院後の追跡調査はできておらず、SSI 発生率を把握する課題と感じていました。ロンドン大学病院では退院後 4 週間目と 8 週間目にアンケートを送り退院後の SSI を追跡調査されていました。アンケート結果では 54%が退院後に SSI を発生しているとのことでした。

データは 1 回/3 ヶ月ごとにフィードバックし、必要に応じて個人データもフィードバックされていましたが、中でも驚いたのが SSI 発生率の高い医師は停職処分が出るとのことでした。講義の時に「明日も停職処分が言われる医師がいる」と教えてくれて本当に驚きました。

私は現在病棟スタッフの傍ら感染管理の業務を実施しています。やはり気になることが ICN の配置人数や活動内容などです。

ロンドン大学病院は系列病院を含めて 1,200 床のベッドを有し病院全体で 5 名の ICP が専従で感染管理を担当しているそうです。職員教育や遵守率調査、フィードバックなどの活動は日本と同じように思いましたが、現場でアウトブレイク等の問題が発生した場合（例えば、ハイリスクケアユニット、NICU、内/外 ICU）、ICP を現場に専従として一定期間配置させて感染の問題解決に従事するそうです。専従として ICP が配置されているからできることなのでしょうね。

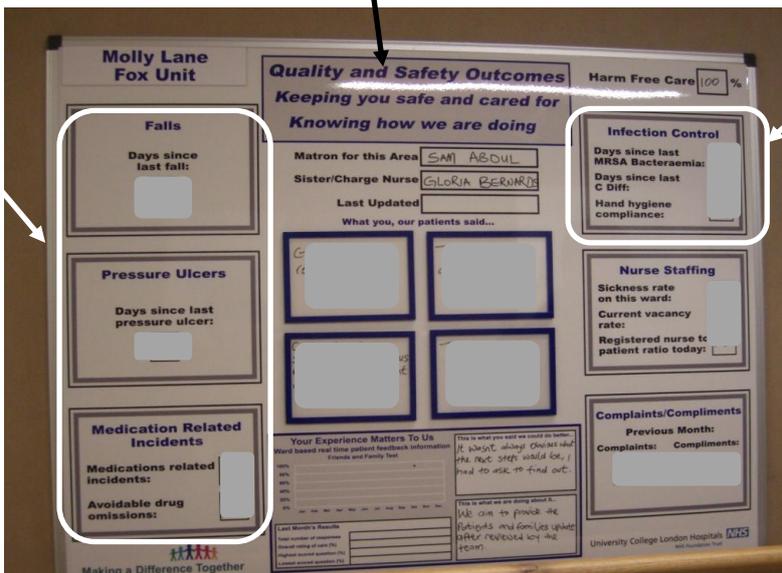
◆病院訪問について

講義では SSI を含めデバイス関連感染症や耐性菌感染症サーベイランスの講義をうけましたが、訪問した病院ではサーベイランスを実践しデータを定期的にフィードバックしていました。

見学させて頂いた National Hospital for Neurology and Neurosurgery のICUでは廊下の壁に大きなホワイトボードが掛けてあり、モニタリングしているサーベイランスデータを公開していました。データを公開するというのは、自分達の医療や看護に責任を持っていなければ難しいことだと思いますが、患者さんや家族にとっては安心ではないでしょうか。また、スタッフにとっても自分達の行ったケアが評価され、モチベーションの向上につながると思います。医療の質は感染管理だけではないので大変素晴らしい取り組みだと思います。

Quality and Safety Outcome
Keeping you safe and cared for
Knowing how we are doing

医療安全に関するデータ
転倒、褥創の発生がなかった日数と、薬物関連インシデントの発生数が示されている。

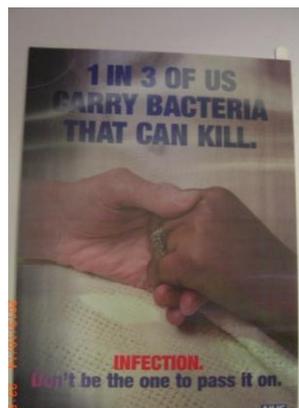


感染に関するデータ
MRSA 菌血症と C.difficile 感染症の発生がなかった日数、手指衛生遵守率 (%) が示されている。

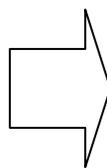
見学した 3 つの病院では共通して手指衛生を含む感染対策について、患者家族、来院者に情報提供しながら感染対策の協力や理解を求める取り組みがされています。

例えば・・・

角度によって変わる手指衛生ポスター

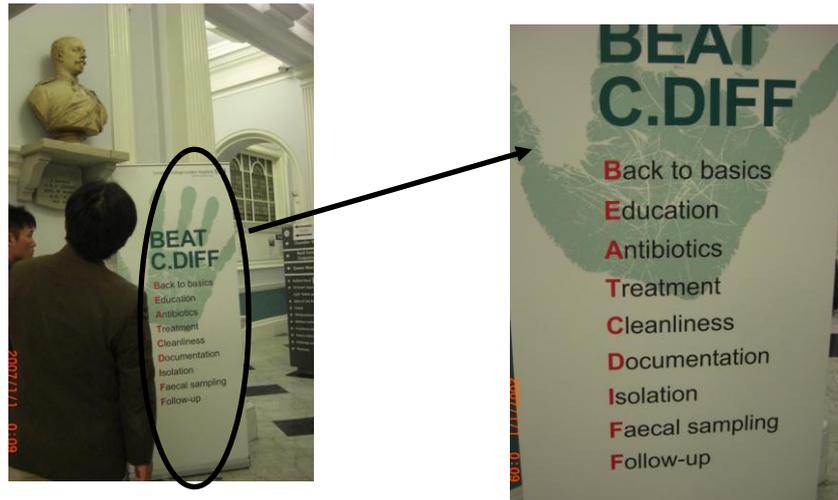


前から見ると
普通のポスターですが・・・



横から見ると
細菌が手から手へ・・・

Clostridium difficile 感染症対策をうたった等身大のスクリーン



家族や来院者に感染症情報を提供するパンフレット



…パンフレットの種類…

- ・ Prevention Surgical Infection
 - ・ A positive MRSA test before surgery
 - ・ Noro virus Information for patients and visitors
- などなど

ベッドサイドには患者さんや家族に「医療者に聞いてもかまいませんよ」という啓発用ポスター



- ・「点滴穿刺時はチェックしてください」
- ・「手を洗ってくれましたか？」
- ・「自分はMRSA陽性ですか？陰性（保菌者かどうか）ですか？」」

⇒この最後の質問は、患者さんが自分は保菌者かどうか聞いても構いませんよ、という意味だそうです。MRSAに関する国民の関心も高く、ロンドン大学病院では入院時に全ての患者さんのスクリーニングをしているからこそだと思いますが、日本の病院で聞かれたら戸惑ってビックリしますね。

アイデアを凝らしたアピールの仕方はとても刺激的でしたが、日本で導入しようと思うと、データを公表するのに戸惑いを感じたり風土の問題もあり現実には難しく感じますが、将来的にはこういう取り組みをしたいと個人的には思います。

◆おわりに

とても充実した3日間を過ごすことができました。

土井先生、通訳のWOOさん、EMIKOさん、そして参加者の皆さん本当にありがとうございました。また土井先生のセミナーでお会いできる日を楽しみにしています。